

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	0873100937		
法人名	有限会社美野里メディカルサービス		
事業所名	グループホームつつじ		
所在地	茨城県東茨城郡茨城町上飯沼2-278 (電話) 029-240-7351		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(平成20年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤	13人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月12日現在)

利用者人数	26 名	男性	15 名	女性	11 名
要介護1	11	要介護2	10		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 81 歳	最低	53 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院、宇野歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「やさしく・しんせつ・ていねい」との理念を掲げ、職員は利用者の尊厳を大切に支援している。
職員と利用者は広い敷地を有効に使い戸外で野菜作りや体操、お茶の時間を楽しんでいる。
職員のチームワークがしっかりし、離職も少なく職員と利用者は馴染みの関係を築いている。
利用者はゆったりと穏やかな生活をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を利用者の家族に報告するとともに、職員は明確になった課題の改善に取り込んでいるが十分な成果を出すまでには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員で自己評価を行っているが、職員は自己評価や外部評価の意義や目的を理解するまでには至っていないので、改めて認識させるとともに外部評価を活かし改善に取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は区長や民生委員、地域の代表、利用者の家族、地域包括支援センター職員で委員を構成し、12月初旬に初めての会議開催を予定している。 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、出た意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や苦情等の相談受付窓口を重要事項説明書に明記している。 玄関に意見箱を設置するとともに「つつじ便り」を活用して意見や要望を出してもらえるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は町の清掃活動(クリーン作戦)に職員と共に参加している。 近所の方からたけのこや菊の花など、季節の物のお裾分けがある。 地域の保育園の夏まつりに参加するほか、授業の一環として小・中学生の訪問を受け入れている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしく・しんせつ・ていねい」との理念を掲げている。 地域密着としての理念を掲げるまでには至っていない。	○	事業所は「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで」という観点で職員と理念について話し合い地域密着としての理念を作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を常に意識して利用者を支援している。 職員同士で日常的に理念を確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は年2回町の清掃活動（クリーン作戦）に職員と共に参加している。 近所の方からたけのこや菊の花など、季節の物のお裾分けがある。 地域の保育園の夏祭りに参加するほか、授業の一環として地域の小・中学生の訪問を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員で自己評価を行っているが、職員は自己評価や外部評価の意義や目的を理解するまでには至っていない。 前回の評価結果を利用者の家族に送付するとともに、職員は明確になった課題の改善に取り組んでいるが十分な成果を出すまでには至っていない。	○	自己評価や外部評価の意義や目的を理解するとともに、外部評価を活かし改善に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長や民生委員、地域の代表、利用者の家族、地域包括支援センター職員で委員を構成し、12月初旬に初めての会議開催を予定している。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、出た意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の研修会に参加し他の事業所と意見交換をしている。 事業所として行政に対する積極的な関わりを行うまでには至っていない。	○	施設内の空き地の活用方法の相談など町の福祉関連部署にアドバイスを得ることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の広報誌「つつじ便り」を通して利用者の生活状況を家族に報告している。 利用者の暮らしぶりや金銭管理を定期的に報告するまでには至っていない。	○	利用者の生活状況や健康状態、金銭管理等は定期的に家族等に報告することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情等の相談受付窓口を重要事項説明書に明記している。 玄関に意見箱を設置するとともに、「つつじ便り」を活用して意見や要望を出してもらえよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士のチームワークで離職を最小限に抑えている。 利用者との馴染みの関係をできるだけ維持するために職員の異動は各ユニット1人ずつとし、全てのユニットで馴染みの関係が築けるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の情報を施設内に掲示し職員に周知するとともに研修後ミーティング等で報告し、研修内容を共有している。 計画的な研修を実施するまでには至っていない。	○	管理者や職員の段階に応じた研修計画の作成と実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入するとともに介護の仕方を学ぶなどでサービスの質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	退院後サービスを開始する場合は、入院中に何度か面談し顔馴染みの関係を築くようにしている。 利用者が環境に馴染むまで職員が寄り添いながら支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活を支援しているなかで昔話を聞いたり、和食の味付けや正月のお飾りづくりを教わるなど多くのことを学び支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「ここで暮らしていきたい」などの言葉の一方で利用者のあきらめなどもあり、思いや意向を把握するまでには至っていない。 アセスメントシートはあるが利用者の思いや意向の把握の記録が少なく十分に活かしていない。	○	利用者一人ひとりに丁寧なアセスメントをし思いや意向の把握に努めることを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の同意を得ているが、介護計画を作成する際に利用者や家族、関係者の意見を聞くまでには至っていない。	○	チームで作る介護計画という観点で多くの関係者の意見やアイデアを反映して介護計画を作成することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングやアセスメントをしていない。 利用者に急な変化があった場合の見直しが十分とはいえない。	○	期間にとらわれず、利用者の状態の変化に即した介護計画の見直しを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし病気の重度化を早期に回避している。 医療機関へ受診の際に家族等が付き添えない場合は、職員が送迎を支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関への受診支援をしている。 「看護サマリー」で受診の状況を把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員で重度化や終末期に向けた方針を話し合い「重度化、看取りに関する説明及び同意書」を作成しているが、家族の同意を得るまでには至っていない。	○	「重度化、看取りに関する説明及び同意書」を利用者や家族に説明するとともに同意を得ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴の着替えの支援は周りの状況を見ながら一人ずつ対応している。 利用者への言葉かけは職員でお互いに注意しながら対応している。 個人情報等の記録は所定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間は利用者の希望を尊重している。 また、利用者の趣味等を大切にしながら日常生活の支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	静かな雰囲気の中で食事を摂っている。職員は利用者の間に入り、食の進まない利用者には声をかけるなど支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間を決めて週2回入浴を支援しているが利用者の希望する回数や時間にそった入浴を支援するまでには至っていない。	○	職員で利用者の希望にそった入浴回数や時間等の支援に向けた話合いが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「生活と安全のカルテ」により利用者の生活歴を把握するとともに役割意識を持った利用者には「食材運び」などを担ってもらっている。 利用者の居室前の庭に小さな畑をつくり野菜類を耕作している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2～3回散歩をしている。 天気のよい日は音楽鑑賞やリハビリ体操を屋外で実施している。 遠出する際は法人の車を使用できるように予定を立て外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることで利用者にあたえる弊害を理解している。 玄関は幹線道路に面しているため日中施錠しているが、利用者は居室から自由に庭に出ることができる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や警察と連絡を取りながら年2回避難訓練を実施している。 職員は避難経路を把握している。 事業所は地域の自警団と関わりを持っているが災害時の協力関係を築くまでには至っていない。	○	地域の自警団に災害時の協力が得られるように話し合うことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事や水分摂取量を把握し口頭で申し送りをしているが記録として残していない。	○	利用者の食事や水分摂取量を記録し全職員で共有することを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの前にはテーブルと椅子があり、食後に利用者同士が寛いでいる。 居間の一角に畳の空間があり洗濯物をたたむときなどに使用している。 廊下の随所に木製のベンチを設置し休憩所になっている。 多くの観葉植物を職員と共に育てている。 カーテンで陽光の調節をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の集合写真や将棋盤、趣味の雑誌などがあり、利用者が思い思いの生活を楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。